## 令和3年度 分掌チャレンジ 目標

		令和3年度	分 掌等 名	教頭、首席、教務部、生徒指導部、進路保健部、人権・道徳教育推進委員会、生徒支援委員会 具体的な目標や方法〔数値目標があれば〕 (どのようなレベルまで、どのような方法で、いつまで、など)
基	「分かる」「楽しい」を実感し、「達成感」を持てる 授業づくりと環境づくり	ICTや視聴覚教材を取り入れ、分かりやすい授業を行う。	利用の手引きの作成を	T機器(Chromebook等)の活用をめざし、情報処理委員・オンライン授業委員と連携し、説明会の実施や、 行う。 例を情報共有ができる場を設け、相互に研鑚ができるように図る。
		規則正しい学校生活を通して、授業規律を確立し、学習環境の充実を図る。	-学校教育自己診断(生	旨導のマニュアルや授業規律を全教員が再認識する機会を設ける。 E徒)で「学校の授業中は、落ち着いて学習しやすい。」の肯定率を2%向上させる。(R2:67%) 「導を強化し、早退者数を年間100件以上、減少させる。(R2:1400件)
		生促り認知能力を把握し、他々に応じた技未内谷 教例の上大を打了。	年度末にも認知能力検・新入生は国数英で展	上を図るために、新入生に対し認知能力検査を行い、毎日10分程度ずつ、授業中にコグトレを実施する。 査を行い、どの程度改善されたかを数値化する。 開授業を行うほか、別室生徒や、日本語指導が必要な生徒など、生徒の情報を教員全体で共有し、ICT教 る授業を行い、生徒個々の特性に合わせたきめ細やかな指導を行う。
	図書館の利用促進	図書館の利用を促進し、本に触れる機会を増やす。		する仕組みを考え、生徒が主体的に学ぶことのできる機会を提供する。 深究や学習の時間において、図書室を利用する授業づくりを依頼する。生徒が足を運ぶ機会を作り、そこ を持たせていく。
自尊感情の会	人としての倫理観や規範意識の向上	互いを認め、ともに高め合う人間性を育成する。		実させるとともに、生徒会や学校行事等の特別活動及びクラブ活動を中核的な指導の機会とし、一人でも思め、ともに高め合う人間性を育めるよう、具体的な取り組みを教職員一丸となって進める。
		命の大切さ、善悪の判断等について指導する。	るとともに、現代社会や・学校教育自己診断(生	の時間やHRにおける、いじめ防止学習会や人権学習会、情報モラル講演会等の機会を計画的に整備す 倫理等を指導する公民科を中心に各教科で行われる授業を、具体的な指導の機会とする。 (表)の「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」の肯定率80%を維持す (2 83% * R5 85%が最終目標)
		挨拶のできる生徒を育てる。		人でも多くの教員が門に立ち、挨拶と声かけを行い、生徒が自ら挨拶をしやすい環境づくりをめざす。 E徒)で「自分は、あいさつをしている。」の肯定率を2%向上させる。(R2:71%)
	コミュニケーション力の向上	学校行事を積極的に参加できる環境をつくり、人と関わる喜びを体験させる。また、体育祭や文化祭等の行事において、保護者や地域、中学校教員と積極的に連携を図る。	<ul><li>行事の生徒参加率を活 ・学校教育自己診断(生 ・各学年と連携し、保護</li></ul>	行事の企画運営を行う中で、生徒が主体的に参加、活躍できる行事をめざす。 維持する。(R2 体育祭:59.7% 文化祭:59.7%) E徒)で「体育祭、文化祭などの学校行事は楽しい」の肯定率を2%向上させる。(R2:72%) 者懇談や案内文などを利用して、保護者や地域の方々の各行事への参加を促す。 R場者数を延べ300人以上にする。(R1:293名)
	家庭・中学校・地域との連携強化	必要な情報を速やかに発信し情報共有を密にすることにより、学校、家庭、中学校、地域が一体となり、教育活動を進める。		民護者)の「学校の様子をHP,寝屋定メール、懇談や配付プリントなどによって知ることができる。」の肯定 2:86%)
		ボランティア活動を継続する。		間4回実施し、生徒に参加を積極的に促し、ボランティア意識を高めさせる。 団当たりの参加者を40名以上にする。(R2:38名)
			(1)認知機能を強化す •英数国美体の教科 •4月当初に認知力法 (2)さまざ困難に置 •月に1回の教育相話 •学校だけで解決で •学でよるカウンセー ・学ではるカウンセー ・学習支援員を活用 •学習支援員を活用	員会と名称変更し、様々な課題を抱える生徒に対し充実した支援を行う。ることで学習の基盤を作り、コミュニケーション能力を向上させる。(新1年生)に協力を得て、生徒が1日に1回はコグトレを受けるようにする。削定テストを行い、年度末に同じテストをもう一度行い、効果を測定し検証する。「面している生徒に対し、教員だけでなく外部人材も活用し、支援する。炎会議で学年から生徒の情報を収集し、会議内で手立てを考え、必要に応じてケース会議に繋ぐ。きない事案については、SSWと協力して外部機関と連携し、学校外での支援に繋げる。リングを前年度に引き続き充実させる。また、カウンセリング内容を担任と共有し、生徒の指導・支援に繋がいのある生徒が安全に学校生活を送ることができるよう支援する。し、学力に不安のある生徒を細かく支援する。。がいる生徒に対し、教育サポーターを活用し、国語科だけでなく、他教科でも抽出授業を行い支援する。の進路決定に対し、進路保健部と連携し、またSSWと協働しながら支援を行う。